

広報広聴特別委員会行政視察報告書

期 日	平成 30 年 10 月 23 日（火）～24 日（水）
訪問先	福岡県大牟田市
出席者	越智 一久 委員長、栗山 香代子 副委員長、 望月 真実 委員、瀧口 慎太郎 委員、山崎 由枝 委員、高橋 知己 委員、 田口 孝男 委員、沼田 幸一 委員、井上 敏夫 委員
随行者	安藤主査
調査項目	議会報告会について
調査内容	<p>議会報告会は、毎年 8 月に 9 会場で実施している。全議員を 3 班に分け、1 班当たり 3 会場担当している。参加者数は全会場の合計で 250 人前後と多くはないが、ここ数年は横ばいで推移している状況である。</p> <p>報告については、より多く参加してもらえよう、市民の関心が高いと思われるテーマを選定するなどの工夫がされている。</p> <p>会場内には、参加する障がい者に配慮するため、要約筆記と手話通訳を全会場に配置している。要約筆記については、会場内のスクリーンに映し出しており、聴覚障がい者だけでなく、話の内容が目で追えるということで高齢者にも好評である。</p> <p>参加者から出された意見は、重要度によって 4 つの分類に分けている。集約・分類した意見はホームページなどで公表している。分類の中で最も重要度の高い意見は、所管の常任委員会で検討し、市長へ提案・要望を行い回答を求めている。</p>
主な質疑	<p>Q 参加者からの意見はどのように分類しているのか。</p> <p>A フォーマットが大体決まっていて、そのフォーマットに沿って各班の班長が大まかに分類分けをする。そして、各班長が分類分けをしたものを 1 つに集めて、広報広聴委員会の広聴部会で分類分けが正しいか協議している。今年度も約 150 項目の意見が出されたので、広聴部会での作業は 1 日か 2 日程度かかる。</p> <p>Q 手話通訳と要約筆記を導入した経緯は。</p> <p>A 障がい者へ配慮すべきではないかとの議論があったことと、障がい者団体から要望があったことから導入した。全会場に配置する必要があるのかという議論もあったが、どの会場にも気軽に参加してもらえようとするため、全会場に配置をしている。</p> <p>Q 議会として、予算関係など報告すべきものがあると思うが、報告しない理由は。</p> <p>A 分かりやすいテーマを選定するところに重点を置いている。当初から市民の関心があることや、身近な話題をテーマに設定することで実施している。市民からも予算や決算など、議会での審議状況の報告を求められたことはない。</p>